**令和２年度指定管理運営業務評価票**

| 施設名称：府立江之子島文化芸術創造センター | 指定管理者：長谷工コミュニティ・E-DESIGNプラットフォームグループ | 指定期間：平成29年4月1日～令和4年3月31日 | 所管課：府民文化部 文化・スポーツ室 文化課 |
| --- | --- | --- | --- |

|  | 評価項目 | 評価基準（内容） | 指定管理者の自己評価 |  | 施設所管課の評価 |  | 評価委員会の指摘・提言 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 評価 | 評価 |
| S～C | S～C |
| Ⅰ提案の履行状況に関する項目 | （1）施設の設置目的及び管理運営方針 | ■センターが提示した施設の運営方針や活動方針に則り、enocoの存在感を高め、より多様で多くの人々に活用いただけるような施設の運営がなされているか。  ■enocoならではの場作りと運用に努め、主体的な創造活動と交流の機会を提供し、場の活性化がなされているか。  ■各事業はセンターの方向性・強みづくりに沿った運営がなされているか。  ■今年度の重点方針「人材とネットワークの活用」「三本柱（‟ネットワーク”‟教育” ‶プラットフォーム”）の連携」に基づき、地域の資源や文化芸術と府民をつなぐ共有地としてのenocoを形成するとともに、更なる認知度向上、貸館利用率の向上を含む場の活性化に取り組むとともに、施設利用の仕組み、空間の使い方等、様々なニーズに対して柔軟な対応を検討、実施しているか。  【目標値】  ◇来館者数延べ：150,000人  ◇文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の  延べ数：890件  ◇enocoと創造的活動を協働した個人・団体等の  数：255件 | 令和2年度は新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響により、様々な面における活動が困難な状況下にはあるが、運営方針と活動方針に基づく「ネットワーク」「教育」「プラットフォーム」をenocoの強みづくりの3本柱と位置付け、以下の事業を実施している。  「ネットワーク」  ➣「文化的コモンズの形成と担い手の育成」という目標に向け、ネットワーク形成に取組んでいる。大阪で活動するアーティストや都市デザインの専門家と文化的コモンズの形成に向けた意見交換を行ってきた。  ➣公立文化施設のネットワーク、中間支援のネットワークと連携して、新型コロナの影響を受ける府民やアーティストが活動を継続していくための施設運営・環境整備を行った。  「教育」  ➣多様な世代・多様な関心を持つ府民が主体的に創造活動に参画できる教育事業を実施している。  ➣今年度は新型コロナの影響を鑑み、オンラインや通信制といった新たな形態でプログラムを構築し、受講しやすい環境を整備した。  「プラットフォーム」  ➣新型コロナの影響で中止や延期となる事業も発生しているものの、一部については、来年度に向けた協議を継続している。  ▼重点項目について  「人材とネットワークの活用」  「三本柱（‟ネットワーク”‟教育” ‶プラットフォーム”）の連携」  ➣新型コロナの影響で事業の中止や変更が生じており、各事業ごとの柱立てもしっかりできていない中、現時点では、３本柱の密接な連携には至っていない。しかしながら教育プログラムの受講生がそれ以外の複数の事業に参加するなど、人材が各事業をつないでいく道筋が可視化されてきた。  ➣ニュースレターで貸室事業や施設空間の使い方などを提示するほか、外部からの企画持ち込みやチャレンジ企画を積極的に受け入れ、様々な活動の受け皿となるべく、柔軟な対応を行っている。  【実績12月末現在】  ◇来館者数延べ：45,747人（達成率30.5％）  ◇文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ数：301件（達成率33.8％）  ◇enocoと創造的活動を協働した個人・団体等の数：51件（達成率20.0％） | Ｓ | ★緊急事態宣言の発出による閉館措置や開館時間の短縮、また、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響による府民の外出自粛の傾向等により当初の目標値の達成が困難であることは明らかである。とは言え、その影響は一概に数値化できるものではない。そのため、今年度は当初に設定した方針や事業計画の進捗に加え、新型コロナ感染拡大の状況下において、文化芸術の創造・振興拠点としてのenocoが果たした功績についても、定性的に評価するものとする。  ・指定管理2期目/4年目となる今年度は、10年の節目を迎える来年度に向けた助走期間として、これまでに蓄積されてきたノウハウやネットワークを活用したenocoならではの事業実施により、多様で、かつ、多くの人々による創造活動や文化交流が展開されるよう事業計画を立てていたが、新型コロナの拡大により、休館や事業の中止・延期を余儀なくされた。  ・しかしながら、その空白期間にも過去のアーカイブ配信等による認知度の向上はもとより、ハード面の新型コロナ対策並びにガイドラインの制定等によるウィズコロナ期への対応、また、アフターコロナを見据えた各事業の在り方の再考等、来年度の集大成に向けて、有意義な時間の活用に努めていた。  ・今年度の重点項目である「人材とネットワークの活用」については、来年度までを見越した教育事業（過去の受講生への実践機会の提供）等を通し、着実に進めている。  【実績12月末現在】  ・enocoは、新型コロナへの対策とその広報がしっかりとできており、比較的早い段階から活動を再開していたものの、外出自粛要請等の影響により、来館者や利用者は減少した。 | Ａ | ・新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の影響を受けたこの１年を振り返り、本来、文化施設を社会の中でどう位置付けるのか、ということを掘り下げて考える必要がある。  ・enocoの施設、収蔵作品、人材はどれもすごく価値があると思うので、今後は大きく広く根を張って進んでいける施設になってほしい。  ・文化芸術の分野でも、2025年の大阪・関西万博に向けて、一緒にできる、生み出していける、明るい未来を作り上げていく必要がある。enocoのポッセについても、万博のボランティアにふさわしい、ＳＤＧｓ含め文化リテラシーが高い人材となるよう、育成していってほしい。  ・オンラインという、距離を飛び越えられるツールを手に入れたので、今後は、それを使ってアイデアをシェアする相手として、もう少し広い視野で各地の文化施設との交流をめざしてほしい。  ・オンラインとオフラインをクロスさせ、上手く使いこなすことで、これまでのカテゴリーをむしろ超えて、新しいジャンルを生み出すということに、どう取り組めるかということが次なるミッション。  ・今年度は数値目標に捉われずに評価するとしても、今後、新型コロナの影響が言い訳にならないよう、何らかの基準を整理しないといけない。 |
|  | （2）平等な利用を図るた  めの具体的手法・効果 | ■高齢者、障がい者等に対しての利用援助が適切になされているか。 | 各種研修を実施して職員の知識と意識を高め、高齢者や障がい者等、府民の誰もが安心して気持ちよく利用できるよう、ホスピタリティを意識した接遇に努めている。 | Ａ | ・館内での要配慮者への対応はもとより、ホームページやその他の広報媒体への障がい者等への配慮に関する記載がしっかりと定着してきた。 | Ａ |  |
| （3）利用者の増加を図るための具体的手法・効果  （4）サービスの向上を図るための具体的手法・効果 | ①協働の拠点づくりに関する業務  **ア　文化関係機関とのネットワークの構築と文化情報の収集・提供**  ■ネットワークの拡大に努めるとともに、形成されたネットワークを大阪に根付かせるための在り方を検討しているか。  **イ　創造的な活動機会の創出等の支援**  **■**コーディネーター人材育成を目的とする「続・enocoの学校」のメニューの強化を図るとともに、協働・実践の場の提供による自律的・自発的な人材の育成を行っているか。  **ウ　相談窓口の設置** | **ア 文化関係機関とのネットワークの構築と文化情報の収集・提供**  ・「文化的コモンズの形成と担い手の育成」という目標に向け、ネットワーク形成に取組んでいる。大阪で活動するアーティストや都市デザインの専門家と文化的コモンズの形成に向けた意見交換を行なった（7月、11月実施／非公開）。  ・大阪アーツカウンシルが推進する公立文化施設プレ情報交換会（5,11月）に参加しているほか、２月に実施されるアーツカウンシルのシンポジウムへの参画に向け、調整等に協力している。  ・文化庁「文化芸術活動の継続支援事業」美術・写真分野における事前確認番号発行を行う「無所属系作家確認証連合体」に参画。全国の美術館、アートセンター、大学との課題共有、新型コロナの影響を受けるアーティスト・マネージメント人材を公的支援につなぐ役割を担った（7〜12月）。  ・おおさかアートコモンズにおいて、多様な人々が集まり、意見や情報を交換する場として設定していた「ギャザリング」の実施は新型コロナの感染拡大防止の観点から見送っているものの、こうしたゆるやかなネットワークのあり方がコロナ禍においてどのような機能や目的を持つべきかを再度検討する必要があると認識した。  ・外壁を使用したバーティカルダンスのリサーチプロジェクトを実施（11月/関西エアリアルとの共催）。アーティストによる実験的な取り組みのサポートを行うことで、enocoの活用の可能性を改めて見直すきっかけとなった。  ・「アートに関わる人のための講座」を実施（10月/enoco在籍のアートコーディネーターとの共催）。確定申告、ポートフォリオ講座をオンライン（一部、現地）で開催し、アートに関わる人たちが活動を整理・発展させていくためのサポートを行った。  ・大阪文化芸術フェス「絵で行けるとこ　黒田征太郎展」との連携で、外部階段に懸垂幕を設置。展覧会の告知・阿波座駅からの誘客に留まらない、地域との共創、アートを用いた地域のまちづくりに貢献した。  ・「創造のテーブル2021」をウェビナーで開催（1月10日）。延べ104名の参加があり、実施後のアンケートの回答率も45%と高かった。「長時間だったが時間を感じさせない濃度の高さだった」「自身の活動や生活のヒントを得た」といった意見をいただき、好評だった。  テーマ：「創造的な学びとは？アートに関わらず、不確実性の高い社会の  中で、どのような創造的な実践が可能か？」  ゲスト：会田大也（山口情報芸術センター・アーティスティック・ディレクター）、井庭崇 （慶應義塾大学SFC総合政策学部教授）、たきいみき（俳優）  モデレーター：三木学（文筆家、編集者、色彩研究者、ｿﾌﾄｳｪｱﾌﾟﾗﾝﾅｰ他)  【今後開催予定の事業】  ◆Breaker Projectフォーラム（3月・共催）  西成を拠点に活動するBreaker Projectとのフォーラムを開催予定。  **イ 創造的な活動機会の創出等の支援**  ◆enocoの学校  3つのコースを開講。複数のコースに参加する受講生も出てきている。  ◎「ぞくぞく・enocoの学校～マスターコース～」  2013年より『柔軟な発想で新たな価値観を創造し、未来を素敵に変える人材を育成する』をテーマに開講してきた「enocoの学校」の卒業生を対象に『実践的問題解決能力を身につける学び場』をテーマに掲げ、「ぞくぞく・enocoの学校～マスターコース～」（2年連続受講）として設定。レクチャー型の学びからゼミ型に移行し、2年をかけ〈自ら「問い」を立てて答えを共に探し、実践する学び場〉として進めて行く。 　enoco設置10年の節目に活躍する人材を育成するため、学びの充実度の向上を目指して運営しており、本年度は一般受講生を公募せずに、過去に　enocoの学校を受講したことのある卒業生を対象としている。 　なお、新型コロナの影響を受けてオンライン開催に移行しており、enocoのオンライン運営・事業実施のノウハウの積み上げにも寄与している。  ・デザインゼミ師範：中脇健児（場とコトlab）・多田智美（Muesum）  ・パブリックゼミ師範：濱本庄太郎（enoco　PF部門ディレクター）  ・アートゼミ師範：山城大督（美術家）  ※今年度参加人数：19名  ◎「こどもアート学科」造形コース  月1回の小学生を対象としたアートプログラム。昨年度から講師を増やし(2名→5名)より多様な表現、素材、技法に触れることができる内容となった。また、オンラインでつなぐことにより、遠方に住む講師も起用し、一層プログラムの充実を図った(青森/10月、東京/３月予定)。  ※今年度参加人数： 12名  ◎「こどもアート学科」しこう実験コース（なんだこれ？！サークル）  昨年度の受講生の評価から、子どものみならず大人にも対象を広げて実施。　YouTube上で課題とその講評を公開するスタイルを採用。通信制講座であることから、生徒は自宅等で一人での取り組むこととなるが、課題発表YouTubeでは互いの課題を鑑賞できる。  ゲスト講師として6名のアーティスト講師を招き、多様な表現手法・発想手法に触れる機会をつくっている。  また、通信制のため府民のみならず、全国から受講生を募集することが可能となり、enocoの取組みのPRにもつなげたほか、Youtubeでの講評等の一般公開により、enocoのチャンネル登録者数自体も増加した。  ※今年度参加人数： 19組（こども9名、大人もしくは親子10組）  ◆大学生等のインターンの受け入れ  ・インターン2名を受け入れた。  （大阪成蹊大学教育学部、京都芸術大学アートプロデュース学科）。  ・新型コロナの影響で受け入れ日数が大幅に減少したことから、意欲ある学生が現場に関わることができるよう、インターンカリキュラム終了後も「こどもアート学科」造形コースへの受け入れを可能とした。  ◆「enocoの円卓会議」  ・enocoの場の更なる利活用に向けて府民やアーティスト・クリエイター等で意見交換を行う場として、館長がマスターとなって開催する「enocoの円卓会議」を立ち上げ、来年度にかけて不定期で開催することとした。  ・第1回（11月）は主にポッセが参加し、様々なアイデアが活発に入り交じる会になった。  【今後開催予定の事業】  ◆enocoの学校「こどもアート学科」作品展（3月20日～4月4日）  ・造形コースを受講している子供たちがプログラムの成果を発表する作品展を実施。作品展広報物(チラシ)は受講生たちがデザインする予定。  **ウ 相談窓口の設置**  ◆「eno so done!」  ・「eno so done!」と題した月1回の相談会の実施に加え、問い合わせがあった際には随時対応している。  ・2Fオフィスに入居する「シティプロモーション研究所」との連携により、シティプロモーション・WebサイトやSNSを活用した広報等に特化した相談にも対応。  ・府外からの相談、「enocoの学校」卒業生からの相談が持ち込まれている一方で、府内自治体からの相談は減少しており、一層の周知が今後の課題。  ◎相談件数（12月末時点まで）：6件  （うちシティプロモーション研究所と連携で対応：1件）  愛知県西尾市、神戸市長田区（2）、  和泉市立青葉はつが野小学校げんきっこプラザ実行委員会、  児童発達支援・放課後等デイサービス、  （公財）国際花と緑の博覧会記念協会 | Ｓ | **ア 文化関係機関とのネットワークの構築と**  **文化情報の収集・提供**  ・大阪アーツカウンシル等とも連携しながら、コロナ禍において可視化された文化芸術分野の課題に一定の対応を行っており、今後も引き続き、府内の文化施設・団体等のけん引役として、一層の対応に努めていただきたい。  ・また、現状を踏まえ、大阪における文化芸術分野の担い手支援がどうあるべきかの検証を進め、来年度はそれを実践につなげていただきたい。  ・enocoとして文化庁の支援事業の一翼を担ったことは非常に評価に値する。その過程での気付き等を今後のenocoでの活動の際に生かしていただきたい。  **イ 創造的な活動機会の創出等の支援**  ・「ぞくぞく・enocoの学校」については、ターゲットを過去の受講生に絞り、少人数ごとのゼミ形式とすることで、即戦力のある人材の育成が期待できる内容となっている。  ・「こどもアート学科」については、講師の幅の広がりや対象者に大人も加えること（しこう実験コースのみ）で受講者への刺激が増し、より高い効果が期待できる内容となっている。  ・今年度は、オンラインへ切り替えた講座もあり、遠方からの参加が可能になったこと、また、アーカイブ等の一般公開を開始したことから、より多様な層への訴求が可能となっている。  ・積極的な大学生の受入や、カリキュラム終了後も含めたenocoにおける実践の機会提供により、次世代の育成に貢献している。  ・館の活用の可能性について、府民等を巻き込んでアイデアを募り、検討を深めている姿勢は評価できる。来年度の集大成事業の際にこれまでとは違う活用がなされることを期待している。  **ウ 相談窓口の設置**  ・コロナ禍においては相談窓口への来訪も困難であるため、オンラインも含めた随時対応は利用者の利便を高めている。  ・今後は新型コロナの影響で相談内容も多様化する可能性も考えられるため、日ごろから情報収集等に努め、適切な助言等をお願いしたい。 | Ａ | ・逆境でのトライアルアンドエラーにより、アフターコロナにむけたアイデアを蓄えることこそ、enocoやクリエイターたちの使命。  ・税務やポートフォリオ等、社会のベースのところをアーティストが学ぶ機会を提供していくことが中間支援団体として大変重要。また、その場をオンラインで提供したということに、enocoの重要な役割がある。  ・これからは、今年度蒔いた種を育てるというフェーズに入る。単なるオンラインへの切り替えではない取組みや、この期間を有効活用したこれまでの事業の整理ができているので、普段通りの日常が戻ってきてもこれを武器として活用し、次のステップに進んでほしい。  ・ＩＴスキル等、これまでと求められるものが違っており、アーティストをはじめ、役所や施設も学ぶべき。また、オンラインにより、年齢も立場も居住地も全く違う人達が会することになり、コミュニケーションのあり方ももっと柔軟に考えないといけない。  ・試行実験として、今後も新しいことに取り組み、またそれを情報発信していってほしい。  ・真面目過ぎて、遊び方が下手。もう少しフライング的に遊ぶことで力強くなれる。アイデアを打ちだし、前に前に出ていく姿勢で見ている側を勇気づけてほしい。 |
|  |  | ②フリースペース、ライブラリー兼休憩室等の利活用に関する業務  ■誰もが自由に利用できる空間として運用されているか。  ■カフェ機能を活用した来館者の交流等を促すようなプログラムや集客を高めるイベントを実施する等、利用価値を高め、魅力ある空間として整備・運用されているか。 | ・地下のフリースペースでは「CORAL PARLOR enoco」と連携し、enocoの場の活性化に向けてのイベント等を企画している。また、地域の人々、クリエイターが自由に使用できる休憩スペースとしても運用している。  ◆「enocoの円卓会議」【再掲】  ・enocoの場の更なる利活用に向けて府民やアーティスト・クリエイター等で意見交換を行う場として、館長がマスターとなって開催する「enocoの円卓会議」を立ち上げ、来年度にかけて不定期で開催することとした。  ・第1回（11月）は主にポッセが参加し、様々なアイデアが活発に入り交じる会になった。 | Ａ | ・地下のカフェとはメニュー作りや広報戦略等でこ  れまで以上に連携し、相乗効果を図ってほしい。  ・館の活用の可能性について、府民等を巻き込んでアイデアを募り、検討を深めている姿勢は評価できる。来年度の集大成事業の際にこれまでとは違う活用がなされることを期待している。【再掲】 | Ａ |  |
|  |  | ③美術コレクションの管理・活用に関する業務  ■美術コレクションの館内外における展示や貸出し等、積極的な活用を行っているか。  ■府所蔵美術作品の効果的な展示やenocoに蓄積されたコレクションキャラバンのノウハウ等の啓発に向けた取組み、対話型鑑賞プログラムの実施等、創造的な活用を行っているか。  【目標値】  ◇作品活用点数：1,000点  ◇中規模以上の企画展：３回／年　　※共催含む | **〔美術コレクションの保管〕**  保管する美術コレクションに保険をかけ、適切な保管・管理に努めている。美術コレクションの内容に精通した学芸員を2名配置している。  **〔美術コレクションの展示〕**  ※enocoの展覧会開催にあたっては、新型コロナ感染拡大防止の観点から各業界団体等のガイドラインを参考に独自のガイドラインを設定。  ※3年目を迎える「おしゃべり美術館」については、会場内での会話や対話を促す展覧会であるため、開催判断が難しく、今年度は、感染拡大状況や国の方針などを鑑みながら、試行実施と本実施の2回開催を計画し、実施することとした。  ◆「enocoおしゃべり美術館　夏の実験室」展（8月11日～23日）  ・作品の展示に加え、2016年からenocoが取り組んできたコレクションを活用した対話型鑑賞プログラムの記録を展示。  ・1回1組限定でのプライベート鑑賞会(対話型鑑賞、模写等、参加者の希望に合わせて実施)を会期中9回実施。  ・その他、対話型鑑賞以外での作品鑑賞方法として、前年度から継続する「おしゃべり掲示板」を設置(ワークシート、模写シートを希望者に配布)に加え、新たな試みとして、付箋を使ったマインドマップ(ふせんでおしゃべり)を設置した。  ※来場者数　182名(内 鑑賞会参加者24名)  ※コレクション作品展示数：13点  ※イベントでの活用数：117点(13点×9回)  ◆「岩宮武二のまなざし」展（11月7日～27日）  ・大阪を拠点に活躍した写真家、岩宮武二の生誕100年を記念し開催。  ・府のコレクションの1割をも占める約700点の岩宮作品の中から、代表作である『佐渡』シリーズを中心に、初期作品、同時代の人々との関係性が垣間見られる作品や資料、また果敢に取り組んだ写真以外の多岐にわたる作品で構成。  ・岩宮は写真家として高く評価されているが、意外にもその名はあまり知られておらず、彼に関する書籍や資料も少ない。岩宮作品を多く所蔵する府の責務として、これを機に調査を実施。府として初となる個展に臨んだ。  ・今後、著作権者の許諾を得て、展覧会場内を撮影した動画の公開を予定しているほか、巡回を希望する声も多く寄せられており、現在、全国巡回の可能性を模索、企画中。  ※来場者数：762人  ※コレクション作品展示数：68点  （その他、外部からの借用作品点数：3点）  ◆「enocoコレクションキャラバン」  ・府内の学校への出張展示・対話型鑑賞プログラムについては、新型コロナ感染拡大防止の観点から、実施を見送った。  ・2016年から実施してきた「コレクションキャラバン」の実施概要等をまとめ、8月に開催した「enocoおしゃべり美術館　夏の実験室」で展示・紹介。（再掲）  ・「コレクションキャラバン」の取り組み実績やノウハウと府コレクションの周知啓発の為に、ハンドブックの作成に向けて調整中。次年度公開予定。  ・オンラインでの対話型鑑賞プログラムを実施  ➣和泉市立青葉はつが野小学校 (小学3年生) 参加者 3名（12月27日）  ◆「enocoおしゃべりパーラー」  ・カフェと連携した対話型鑑賞プログラムを企画していたものの、飲食を伴うため今年度は実施見送り。  ◆その他  ・対話型鑑賞を学ぶポッセを対象として、オンラインでの対話型鑑賞プログラムを実験的に実施（8月14日/参加者5名）。この結果を踏まえて、1月に実施する「おしゃべり美術館」におけるオンライン鑑賞会を計画。  【今後開催予定の事業】  ◆「enocoおしゃべり美術館」展（1月22日～2月5日）  ・夏期に開催した「実験室」の際の実績をもとに、通常の「おしゃべり美術館」展に近い形で開催予定。  ・オンラインでの対話型鑑賞会を一般向けとして初めて実施予定。  ※コレクション作品展示数：20点  ※イベントでの活用数：未定（今後調整予定）  ◆「彼我の絵鑑」展（3月30日〜5月1日）  ・府コレクションの活用と展示の可能性を探ることを目的に、気鋭のアーティストを招聘し、作家独自の視点と感性でコレクションを選定。作家の作品と選定された府の作品をともに配置する展覧会。  ・3回目を迎える今回は、大阪在住の画家・野原万里絵を招聘。  ・展覧会場内では、作家の公開制作も予定しており、トークイベントと併せて動画配信も予定。コロナ禍における新しい展覧会のかたちを模索。  **〔美術コレクションの貸出し〕**  ・江之子島の日本生命病院において、コレクションを常時展示。  ※コレクション作品展示数：2点（年4回展示替え）  ・大阪国際がんセンターと連携し、「アートな病院プロジェクト」と位置づけ、院内における美術コレクションの管理や掛け替え、案内パンフレットの制作等を実施。がんセンターの要望にきめ細かに応えることで、貸出の長期継続化に努めている。  ※コレクション作品展示数：102点  （年度末に約60点の展示替えを予定）  ・新規貸出件数：2件  (ANA、ブルームギャラリー)　／新規貸出作品点数：22点  ※ブルームギャラリーでは、enocoでの「岩宮武二のまなざし」展と同時  開催の写真展を開催（その展覧会に際し、岩宮作品を貸出）  **〔作品状態チェック、清掃業務〕**  ・コレクション展や新規貸出の際に額やガラス等の状態を確認し、必要に応じ新規額、アクリルに交換する等の対応を行っている。  ・モノレール美術館および万博記念公園設置作品の作品状態チェック、清掃作業については昨年度から年1回実施（12月9,10日）に変更し、維持管理に努めている。  【実績12月末時点】  ◇作品活用点数：865点（達成率86.5％）  ◇中規模以上の企画展：2回（達成率66.7％） | Ａ | **〔美術コレクションの保管〕**  ・引き続き、適切な保管・管理に努めること。  **〔美術コレクションの展示〕**  ・主催展覧会の開催にあたっては綿密なガイドラインの設定等により来場者が安心して作品を楽しむことができる環境の整備に努めていた。  ・特に、コロナ禍においてそのコンセプトを維持することが難しいと思われた「おしゃべり美術館」についても、オンラインやプライベートでの対話型鑑賞会の設定等の工夫により今年度も充実した内容であった。  ・府コレクションの中でもウェイトの高い作品群でありながら、これまであまり活用されてこなかった岩宮武二を起用した写真展については、制作背景や作家本人の軌跡等も含めて展示されており、充実した内容で来場者を楽しませていた。コレクション展の今後の可能性を高めた良い展覧会であり、非常に評価できる。  ・毎年度好評であるコレクションキャラバンについて、コロナ禍における学校の受入れ体制上の懸念から実施に至らなかったことは非常に残念。教育現場における本物の美術作品の登用や対話型鑑賞手法の導入は確実にニーズが高まっていることから、今後作成を予定しているハンドブック等を活用し、来年度も引き続き、普及啓発に努めていただきたい。  ・ポッセとの取組みにおいて試行実施されたオンラインでの対話型鑑賞は、ポッセの育成にも貢献しつつ、また、それがその後の事業への展開にも繋がった良い事例である。  ・今年度残る展覧会についても、新型コロナの感染拡大防止策をしっかり講じた上で、開催手法や広報に工夫を凝らし、府民の鑑賞機会の創出に努めてほしい。  **〔美術コレクションの貸出し〕**  ・大阪国際がんセンターのような貸出の域を超えた連携事業を継続・更新できていることは、病院内における患者への効果のほか、象徴的な活用事業としての宣伝効果も期待できる。  ・府関係施設等に限らない幅広い展示場所の確保という点において、新規開拓も含めて期待したい。  **〔作品状態チェック、清掃業務〕**  ・展示や貸出の機会をとらえた作品の状態チェック、その記録等は随時適切に行うと共に、可能な限り収蔵中の作品についても状態チェック等を実施し、作品の活用や将来への承継のためにも万全な体制を整えていただきたい。  ・外部の作品チェックを年1回実施しており、設置施設からも好評。  【実績12月末時点】  ・引き続き、質と量の両面からの活用を期待する。 | Ａ | ・美術コレクションは、府の財産・資産として、より広く府民に入口を開放し、享受いただくことが大切。  ・美術コレクションを通して、戦後の暮らし・生活を改めてアーカイブしていくことはとても重要。また、それを受止め、どう自分たちのアイデアとしていけるのか考えることも大切である。  ・教育プログラムとして、美術作品の利活用を展開していることは、コロナ禍においても、本当に必要な役割である。 |
| Ⅰ提案の履行状況に関する項目 | （3）利用者の増加を図るための具体的手法・効果  （4）サービスの向上を図るための具体的手法・効果 | ④多目的ルームの利用の承認、その取消しその他利用に関する業務  ■多目的ルームの貸出しにあたり、多様なニーズに対応し、質の高いサービスの提供に努めているか。  ■割引サービスなども含め、わかりやすい募集チラシの作成、発信や、SNS広告等の活用等、戦略的な広報を行い、利用者の開拓に努めているか。  ■適正な減免の実施  【目標値】  ◇多目的ルーム（１～4）：利用率50％  ◇多目的ルーム（5～12）：利用率60％ | **[新規顧客の開拓〕**  ・展示室の貸出については、多様なニーズに対応し、新規の顧客開拓につなげるため、昨年度から「直前割引」「若年層割引」の運用を実施しているところ。  ※直前割引：0件  ※若年層割引（25歳以下）：1件  ・貸館事業そのもののPRのため、SNS広告、リスティング広告等を実施。  ・7月発行のニュースレターにて、「貸室」を特集。利用者による多様な活動に焦点を当て、利用促進を図った。また1月発行のニュースレターでは、「enocoの空間の活用方法」を特集。多目的ルームにとどまらないenocoの壁や床も含めた利用事例・アイデアを紹介し、enocoが幅広い活動の受け皿となり得ることを発信し、新たな利用者の開拓を目指している。  **〔その他〕**  ・シェアオフィスへの新規入居があり、シェアオフィスの利用率が100%となった。  ・貸館における利用料の減免については、館内に審査委員会を設置し、利用目的や内容を評価して厳正に審査を行った。  　※減免：全額 0 件、半額 1 件  【実績12月末時点】  ◇多目的ルーム（１～4・展示室）：利用率27.5％  ◇多目的ルーム（5～12・事務室等）：利用率53.5％  　※参考：主催事業を含めた利用率  ・多目的ルーム（１～4・展示室）：利用率32.5％  ・多目的ルーム（5～12・事務室等）：利用率54.6％ | Ａ | **〔新規顧客の開拓〕**  ・WEB上での広告展開等に加え、新たな割引制度の導入等による新規利用者獲得に向けた取組みや、ニュースレターでの事例紹介等enocoのあらゆる機会をとらえた広報は、一定評価できる。  **〔その他〕**  ・運営については、規定に沿って運営を行うとともに、審査委員会において審査を実施。不平等な取り扱いがないよう適切に運営している。  【実績12月末時点】  ・現在、検討中の館の新たな活用方策の導入・展開等により、新規利用者の開拓を含め、幅広い層による様々な利用が促進されることを期待したい。 | Ｂ | ・貸館事業について、固定の利用客が付き始めているようであり、引き続き、頑張ってほしい。 |
|  | ⑤地域住民や江之子島まちづくり事業との連携・  協働に関する業務  ■地域の社会活動等を連携・協働で進める体制の運営に努め、地域住民が集い、活動できる機会を創出しているか。 | ◆「えのこdeマルシェ」  ・新型コロナの感染拡大状況により、当初予定の6・8・1月の開催を中止した。また、代替措置として3月に規模を縮小し、開催することを文化課とも協議の上で検討していたが、1月に再度緊急事態宣言が発出されたことを受け、開催は見送ることとした。  ・この間、過去の出店参加者（クリエイター）へインタビューし、その音声をインターネットラジオで公開する「どこでもマルシェ」を実施した（15件）。これにより出店参加者とのコミュニケーションを継続することができた。  ・これまでの「えのこdeマルシェ」の記録をまとめる冊子を発行し、イベントの　　　　開催経緯や５年間蓄積してきたノウハウ等を取りまとめ、府内市町村等へのマルシェ手法等の普及啓発につなげた。  ◆江之子島まちづくり事業との連携  ・江之子島アート＆ライフ事業「DECOBOCO」（☆）と密に連携を図り、相互の施設利用を促進。  （☆）DECOBOCO  「江之子島地区まちづくり事業」再開発により建てられた阿波座ライズタワーズ マーク20／フラッグ46 にあるマークスタジオ・フラッグスタジオの企画運営・管理を「Art & Life～めぐりのまち、えのこじま（A&L）」というコンセプトのもと、行っている。  ・西大阪治水事務所が主催するトコトコダンダンの補修工事状況や今後の活用について情報を共有する場として設定している「トコトコダンダン連絡会」に参加。（9月27日、11月2日実施）  ◆「えのこクラブ」  ・大阪府都市整備推進センターの助成金にて「えのこクラブ」の会則とパンフレットを制作し、周辺への活動周知等に活用した。  ・6月に予定していた「えのこじまグルグル」は新型コロナ感染拡大防止のため、中止することとしたが、今後、次年度の取組等について会議を開催予定。  ※メンバー：日生病院、DECOBOCO（江之子島A&L）、  トコトコダンダンの会、府西大阪治水事務所（津波高潮ステーション） | Ａ | ・従前のように「えのこdeマルシェ」が実施でき、enocoの日ごろからの取組みやネットワーク等の発表の場となること、また、府民がクリエイター等と交流する機会提供の場となることを期待している。  ・今年度実施したインタビューのアーカイブや作成した冊子を活用し、enocoのマルシェを一つのモデルケースとして、同様の取組みがenocoの「外」でも展開されるよう、府内市町村等に普及啓発していただきたい。 | Ａ |  |
|  | ⑥自主事業の実施  ■enocoの収益性を高め、より充実した施設運営を可能とする財源の確保に努めているか。  ■社会課題解決事業に引き続き取り組むと共に、その手法等の啓発や担い手の育成に努めているか。 | 【外部資金によるプラットフォーム形成支援事業】  ・過去からの「プラットフォーム形成支援事業」の実績・ノウハウを活かし、引き続き、自主事業として実施。  （主な事業の例）  ◆令和２年度大阪国際がんセンター絵画の展示及び管理方法等の  監修業務　　　　　　　　　　　　　　　　（大阪国際がんセンター）  ◆泉州農とみどりの健康ご長寿プロジェクト  （大阪府泉州農と緑の総合事務所）  ◆泉州アートサミットアドバイス業務（泉南市）  【その他】  ・デザインやアートとまちづくりをつなぐプラットフォーム形成に関する事業実施を目的とした「特定非営利活動法人Be Creative」の設立に向けた準備・調整を実施。プラットフォーム事業の受け皿として、自立を目指す。 | Ａ | 【外部資金によるプラットフォーム形成支援事業】  ・コロナ禍において、実数は減少しているものの、これまでの実績を活かし、外部資金によるプラットフォーム手法を用いた事業を受託している。また、市町村等への手法の普及啓発にも努めている。  ・プラットフォーム形成支援事業の府域展開について、長期的な観点も含め、その手法の検討に努めている。 | Ａ | ・プラットフォーム形成支援事業が自主事業として自立した後も、地域に貢献していく何かが、 enocoの本来事業に残っていてもいい。例えば、直接出向かなくても、遠隔でアドバイスを行うなど。地域のみならず遠くの人の相談にも対応できるはず。 |
|  |  | ⑦適切な広報の実施  ■enocoの認知度向上に向けた取り組みを行っているか。  ■事業ごとにより効果的な手法を活用し、広報を行っているか。SNSについては、ユーザー層を鑑みた内容の充実や適切な頻度での更新が行われ、フォロワー数の増加が図られているか。  ■誰にでもわかりやすい言葉を用いた広報に努めているか。  【目標値】  ◇WEBｻｲﾄ全体の総セッション数：90,200回／年  ◇メールニュース配信者数：2,500件（者）  ◇SNS（Facebook）のフォロワー数：3,500件（者）  ◇メディア（WEB等含む）掲載数：  120媒体以上／年 | ・緊急事態宣言下の休館期間中、ハッシュタグ（#どこでもenoco）で、事業のアーカイブや府がenoco設置前から開設している「インターネット美術館」などを改めて周知・宣伝した。  ・事業実施の際、ターゲットを絞ったSNS広告等も活用している。  ・今年度は、特に手薄な状況になっているTwitterとInstagramについて、秋頃に担当者を設定して、積極的な広報展開を図ることとした。しかしながら、広報専門の担当者が不在であるため、発信頻度不足や館全体のブランディング、広報戦略の立案などができていないことが課題。  ◆ニュースレターの発行（7月1日）  ➣特集：「貸室」  ➣特集記事で紹介した教室に１件見学希望の電話問い合わせがあった。    ◆ニュースレターの発行（1月1日予定）  ➣特集：「enocoをすみずみまで使いきる」  ➣展示室や多目的ルームのみならず、屋外空間、床や壁といった活用事例やアイデアを紹介し、府民やアーティスト・クリエイターがenocoで様々な実験や実践を促す。  ➣これまでは電子版としてPDFをアップしていたが、この号から電子書籍形式でのデータ公開に変更。スマホやタブレットからの可読性を高めた。  【実績12月末時点】  ◇WEBｻｲﾄ全体の総セッション数：58,237回／年（達成率64.6％）  ◇メールニュース配信者数：2,352件（者）（達成率94.1％）  ◇SNS（Facebook）のフォロワー数：3,161件（者）（達成率90.3％）  ◇メディア（WEB等含む）掲載数：53媒体（達成率44.2％） | Ａ | ・今年度は必要に迫られた部分があるものの、これまで以上にSNS等の活用による事業紹介やアーカイブの配信がなされていた。引き続き、誰にでもわかりやすい広報やホームページの制作・運営に努めてほしい。  ・ニュースレターで具体的な貸室の活用事例等を紹介することで、館で繰り広げられている活動が可視化され、enocoの認知度向上にも結び付いていると思われる。  【実績12月末時点】  ・メールニュースやSNSの積極的な活用により、そのフォロワー数等も増加している。  ・これまでに築き上げたネットワーク等の活用による積極的なメディアへのアプローチにより、告知記事等の掲載数の増加につなげる等、引き続き、あらゆる機会をとらえた広報戦略により、認知度の更なる向上に努めていただきたい。 | Ａ | ・ enocoが創造力の発路となり、それをネットワークで共有し、皆が活用できるというような取組みがあればよかった。（オンライン会議等で利用できる壁紙や新型コロナ対策に使えるマーク等を高いデザイン性、かつ、多言語で作成し、無料でダウンロードできるように提供する。またその際にはenocoのマークを付加するというような発想。） |
|  | （5）施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度 | ■センターの維持管理、安全管理、改修等が適格、迅速に実施されているか。  ■防災・安全対策等、危機管理体制が確立されているか。  ■新型コロナウィルス感染症拡大防止策として、  適切な対応が行われているか。 | ・enocoの維持管理に必要な各種点検について、年間実施計画に基づいて予定通り実施している。  ・現地責任者の下、緊急体制を整えて連絡網を整備し、危機管理体制を確立している。  ・ＥＶピットの漏水に係る防水工事を実施、完了。（11月）  ・排水ポンプ用弁類補修工事及び加湿器点検・修繕作業を実施、完了（1月）  ・新型コロナの感染拡大防止策として、業界団体等のガイドラインを参考に、enoco独自のガイドラインを作成し、施設利用者・来館者・イベント参加者・職員に周知徹底している。また受付カウンター等への飛散防止パネル等の設置等ハード面での感染予防対策も行っている。 | Ａ | ・年間実施計画に基づき、適切に各種点検等が実施されている。  ・新型コロナ感染症拡大防止の観点から、館のハード面での整備やガイドラインの設定、府のコロナ追跡システム等への対応など迅速かつ適切に対応できている。 | Ａ |  |
|  | （6）府施策との整合 | ■府の実施する事業等への協力をしているか。  ■業務における福祉や環境への配慮がなされているか。 | ・大阪文化芸術フェス「絵で行けるとこ　黒田征太郎展」（10月開催）に係る広報協力を実施。  ・大阪府新型コロナウイルス対策本部会議での決定事項や知事からの要請に基づき、休館措置への対応やその他新型コロナ感染拡大防止への協力要請に迅速に対応した。 | Ａ | ・「大阪文化芸術フェス」主催プログラムをenocoで実施するにあたり、enocoの持つツールやネットワークを活用した広報、また事業実施に当たっての館の柔軟な運用で積極的に事業協力を行った。  ・各事業において、福祉の観点から必要な配慮を行っている。 | Ａ |  |
| Ⅱさらなるサービスの向上に関する事項 | （1）利用者満足度調  （アンケート調査）等 | ■多様な層からのアンケート回収やモニター制度の導入などを行い、その結果について、分析及び事後の事業改善につなげているか。  【目標値】  ◇中規模以上の企画展アンケート有効回答数：  100以上  アンケートの結果プラス評価：80％以上  ◇貸館アンケート有効回答数：50以上  　アンケートの結果プラス評価：80％以上 | ・ルーム利用者やセミナー・イベント参加者、来館者にアンケートを実施。  ・特に自由記述のコメントには注意し、適宜運営に反映している。  ・新型コロナの影響で休憩スペースを一部閉鎖しており、アンケートの設置場所が減少していることから、Webフォームの活用等を検討。1月に開催した「創造のテーブル」（ウェビナー）でも試行実施した。  　※結果：47枚回収（延べ104名参加/回収率45%）  　　　　　自由記述の回答率が非常に高かった。  【実績12月末時点】  ◇中規模以上の企画展アンケート有効回答数：59  アンケートの結果プラス評価：98％  ◇貸館アンケート有効回答数：27  　アンケートの結果プラス評価：98.5％ | Ｂ | ・WEBでのアンケート収集等、新たな手法を導入し、利用者や参加者の声を積極的に収集しようとしている姿勢は評価できる。  ・引き続き、アンケートの更なる回収率の向上に努め、広く利用者や来館者から声を募り、改善希望の意見には速やかに対応いただきたい。  ・アンケートで高評価を得た事業等については、その意見等も広報に活用し、更なる集客促進に努めてほしい。 | Ｂ | ・アンケート調査の結果、プラス評価「98％」は非常に高いにも関わらず「Ｂ」評価になっている。アンケートの回答数さえあればいいと捉えられかねない。  ・アンケートの取得総数は限られているが、今年度、enocoにアクセスした人々は、リテラシーがとても高いと思われるので、結果よりも、こういう人達と息長く付き合っていくことこそ、実は重要。 |
| （2）その他創意工夫 | ■enocoのファンづくりに努めているか。  ■その他サービス向上に繋がる取組み、創意工夫（定性的な評価も含める）に努めているか。 | ◆enocoのファンづくり（ポッセ）  ・ポッセの一部は「ぞくぞく・enocoの学校～マスターコース～」の受講生として活動を行なっている。  ・ミニFMの運営を行なっていたポッセは、活動の場をenoco外へと展開する企画を検討している等、今後彼らの活躍によるenocoの発信力の強化が期待される。  ◆enocoのファンづくり（広義）  ・一部の事業でFacebook、Instagram広告を活用することで、ターゲットを絞った広告掲出を行い、enocoの新たなファンづくりに努めている（再掲）  ・Osaka Metro「おでかけキッズパス」（大阪市内の小学生に配布）と連携し、施設やイベントの紹介、ノベルティを使った誘客促進に努めている。  ◆その他創意工夫  ・利用者層や利用目的を検証し、カフェが予定している年度内のメニュー改定にenocoとしてもアドバイスを行っている。 | Ａ | ・ポッセはenocoの事業に関わった人々の出口設定、また府内における担い手としてうまく機能している。積極的に活動する人材も育ってきており、今後もenocoスタッフと協働して館の活性化や府内における創造活動等に貢献していただきたい。また、「ぞくぞく・enocoの学校」の受講生がポッセとして活動を開始・発展してくれることに期待したい。  ・カフェの導入とその利活用により、明らかに客層の幅がっていることから、今後の更なる展開に期待したい。 | Ａ |  |
| Ⅲ適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項 | （1）収支計画の内容、適格性及び実現の程度 | ■収支計画どおりに適正に事業を実施しているか。  【目標値】  （収入）  ◇貸館収入：17,316千円  ◇事業収入（カフェ・物販除く）：800千円  （支出）  ◇事業費（カフェ・物販除く）：5,050千円  ◇広告宣伝費：3,750千円 | ・貸館収入については、目標値比較36％となる。4・5月の休館、それ以降もキャンセルや利用の延期が続いている。enoco独自のガイドラインから利用人数を制限していることも一つの要因と考えられるが、現在の新型コロナの感染状況を考慮すると利用制限の緩和は困難。  ・新型コロナの影響を受け、事業の中止やWeb展開への切り替え等、当初計画していたものから事業の組換えなどを行っており、それに伴う収入・支出の圧縮・調整等も行っている。  【実績12月末時点】  （収入）  ◇貸館収入：6,249千円  ◇事業収入（カフェ・物販除く）：1,400千円  （支出）  ◇事業費（カフェ・物販除く）：1,454千円  ◇広告宣伝費：2,239千円 | Ｂ | ・貸館利用率の向上に努めるとともに、その他の事業収入獲得の可能性も模索しつつ、収入増に努め、事業の一層の充実を図っていただきたい。 | Ｂ |  |
| （2）安定的な運営が可能となる人的能力 | ■事業実施に必要な運営体制・配置になっているか。  ■従事者への管理監督体制・責任体制は妥当であるか。  ■職員研修は十分に行われているか | ・クリエイティブ分野に豊富な実績と人脈を有する人材を引き続き館長に配置してネットワークの構築に努めると共に、多様な分野の専門性を有し、領域横断的な協働に豊富な経験を有する人材を非常勤職員として効果的に配置することで、  費用対効果の高い施設運営に努めている。  ・職員研修として、消防訓練・コンプライアンス研修を実施した。今後年度内に人権研修と個人情報保護研修を実施予定。 | Ａ | ・事業実施に必要な運営体制、配置、管理監督体制になっているのか、またスタッフごとに業務量のバランスが適切であるかどうかを常に意識し、運営されたい。  ・各種研修については、適切に実施されている。 | Ａ |  |
| （3）安定的な運営が可能となる財政的基盤 | ■共同事業体の経営状況、経営規模、健全な財務  状況等が確認できるか。(財務諸表により確認） | ・共同事業体の経営状況、経営規模、財務状況は、施設運営を担う上で問題のない状況で安定している。 | Ａ | ・安定的な運営基盤を築いている。 | Ａ | ・提供のあった財務諸表から、運営上の問題は発見できない。 |

Ｓ　計画以上に進んでいる、目標を大幅に達成している(目標値の20～30％＋をめど）

Ａ　計画通りに進んでいる、目標を概ね達成している

Ｂ　目標を達成できていない部分がある、一部改善が求められる

Ｃ　計画がほとんど達成できていない、大幅な改善が求められる